令和５年２月臨時教育委員会 会議録

１．招集日時　　令和５年２月２２日（水）　午後５時３０分
２．招集場所　　観月台文化センター　第１会議室
３．出席委員　　１番委員　高橋　幸子（教育長職務代理者）
　　２番委員　志村　裕美
　　３番委員　中村　裕美
　　４番委員　引地　　亨
　　５番委員　菊地　弘美（教育長）
４．説明のため出席
　　教育次長　　東海林八重子
　　学校教育課長　　大勝　晴美
　　幼児教育課長　　佐藤　温史
　　生涯学習課長　　小野　笑子
　　指導主事　　高橋　正浩
５．書　　記　　主任主査兼学校教育係長　　五十嵐佐和
６．傍 聴 者　　なし
７．開　　会　　午後５時３０分
８．教育長あいさつ
９．会議の成立　　教育長が、教育委員半数以上の出席であり、会議が成立していることを宣言した。
10．会議録署名人　会議録の署名人について１番 高橋　幸子委員、２番 志村　裕美委員を教育長が指名した。
11．会期の決定　　教育長が会期を諮り、本日１日とすることを決定した。
12．議　　事
　議案第４号　国見町教育委員会事務局組織規則の一部改正について
　　教育次長より別紙資料に基づき説明し、事務局提案のとおり採決された。
　　なお、各委員より出された意見は以下のとおり。

高橋委員：今の時期に組織、名称の変更をする理由は？

教育次長：これからくにみ学園構想を進めていくにあたり、保幼小中の一貫教育を進めていくため学校教育課、幼児教育課の担当を統合することになる。またこれまで主に学校の指導中心だった指導主事は、これから保幼小中の指導に対応できるようになる。教育施設課については、それぞれ担当していた教育施設に関して担い、また学園構想についても主担当として事務を担っていくこととしたのが主な理由である。

教育長：学校教育課、幼児教育課の事務は重なっている部分がある。そこを整理し、より現場のサポートに力を入れていくのが今回の主旨。もちろんくにみ学園についても必要な部分で

あるが、今は教育委員会の体制をしっかりしておくことが大事である。そして保育所、幼稚園の先生方のサポート、また研修もしっかりとやっていきたいということもご理解いただきたい。

高橋委員：再編の理由は、くにみ学園のためだけではなく、今ある問題に対応するためか。

教育長：その通りである。

中村委員：人数の変更はあるのか。

教育長：教育委員会は保育士も含め３６名の定員と決まっているため、人数の変更はない。
また今の時期になったのは、町の組織の改革や職員の内示がこの時期にあり、４月１日から始めるためである。

高橋委員：２年ほど前に認定こども園構想について協議したが、それはくにみ学園に含まれるのか？

教育次長：認定こども園と義務教育学校をまとめてくにみ学園とし、一体的につながる教育をしていこうという考えである。

教育長：認定こども園は内閣府、義務教育学校は文科省であるため、一体的にというのは、物理的に中の廊下でつながるというイメージであり、区分として認定こども園と義務教育学校は別である。今までの認定こども園構想はそのままであるが、時期を義務教育学校と一緒にするという考え。

高橋委員：福島市や伊達市では、認定こども園を法人で運営するところもある。国見町では町でやるのか？その理由とメリットをききたい。

幼教課長：福島市や伊達市は国からの補助が民間の方が手厚いこと、また待機児童解消を目的としてこども園の数を増やしているために民間での運営が多い。

教育長：国見町では、くにみ学園として町が責任をもって保育教育をやっていく考えである。

【報告事項】

１くにみ学園構想について

（1）くにみ学園基本構想（案）に対するパブリック・コメントの実施結果について

（2）第７回くにみ学園基本構想策定委員会について

別紙資料に基づき、学校教育係長より説明した。

各委員より、以下のような意見が出された。

教育長：昨日の策定委員会で大事な意見が出された。くにみ学園に賛成、反対ということよりも、認定こども園と義務教育学校を分けた方がいいという意見があったこと、本来その接続の部分はとても大事なことであるが、策定委員会で議論して考えてきたことがまだ伝わっていないこと、構想の表現や出し方も含めもう一度考える余地があるのではないかとの意見があった。さらに、シンポジウムやワークショップで伝えてきたつもりだが、パブリック・コメントの数から、きちんと伝わっていないのではないかとの意見もあった。子ども達を育んでいくためにもっとワクワクする議論があるはずだがそこまで至っていないのではないかということで、継続して理念を伝えられるよう、策定委員会でもう少し追及するとの話があがり、今回お配りした構想案は中間報告という形として、策定委員会を今後も継続してやっていくことで昨日の策定委員会は終了した。教育委員会としても住民の方に分か

っていただくため、継続して取り組んでいくことになった。
それらのことを含め、委員の方と意見交換をさせていただきたい。

中村委員：策定委員会が継続するということは、ロードマップがずれていくということか。

学教課長：本来は昨日の策定委員会で終了予定だったが、教育長から話があったように、もう少し協議することになったため、現時点でどの程度延びるのか見えていない状況である。

教育長：住民の方に理解をいただくのは時間がかかる。策定委員会でもきちんと腰を据えてやっていくようになるので少し時間がかかる。次の段階の基本計画が遅れてしまうため、最終的な部分もずれてきてしまう。

中村委員：そもそも保幼小中が１か所に集まることを知らない人が多いのと、パブリック・コメントでの意見が少ないが、学園に入る保護者さんには知っていてほしいという思いがある。また、町の大きな事業であるため町民にも知っていてほしい。パブリック・コメントの募集も、広報の配付が遅いと期間が終わっていたり、読まない人もいたりするため他の周知の仕方も必要ではないかと思う。特に子どもを入学させる保護者のコメントは大事ではないかと思う。

教育長：その通りである。少し光明が見えてきたのは、１月の中間報告会に保育所、幼稚園の保護者が参加してくれたこと。実際に質問もしてくれたことは良かったと思っている。そこからの広がりがまだまだであるのが実際のところ。パブリック・コメントで賛成反対に二分されているとは思っていない。まず分からない、興味がない方がほとんどであるため、そこにいかに届けられるかが必要なところだと思っている。

昨日の別な会議に出席していただいた伊達市の委員の方が、「こども園で課題になっている小学校へのつながりの部分について、現場では頭をひねっている。くにみ学園ができることは子ども達にとっても保育者にとってもプラスでしかないこと、国見町が羨ましい。」と言っていた。しかしパブリック・コメントを見るとそこを伝えきれていないと感じている。

国見でコミュニティ・スクールが始まり、幼稚園、小学校の先生は連携して、勉強会も一緒にやってきた歴史がある。しかしコロナ禍で自由に行き来ができなくなり、先生も入れ変わっているためそこは大きい。

中村委員：先日の総合計画審議会で、中１ギャップを無くしてしまっていいのかと話があった。他の市町村では中１ギャップで何が起きているのか、国見町では同じメンバーだが何が起きているのか、国見ならではの問題として発信しないと、どうせ同じメンバーだし、となってしまう。

教育長：総合計画審議会で、中１ギャップの壁を乗り越えた方がいいのではと意見があった。不登校の人数などを話すと子どもが特定されてしまう可能性があるため伝えるのが難しいと。しかし、中村委員が言っていたように、どういう状況なのかを伝える工夫をしていかないと分かってもらえないというのが確かにある。

志村委員：構想を今以上にどう伝えるかについては、これから関わる可能性のある保護者さんへ出向いていくことも大事なのではないか。

学教課長：ＰＴＡ総会など保護者が集まる場所へ出向いて、直接説明したいと考えている。

引地委員：どのくらい住民に伝わっているのか。

学教課長：できる限りの媒体を使って周知してきたつもりだが、それでも分からないのは興味がないのか。しかし、ユーチューブで配信したあたりから若い方も増えてきた感覚。

引地委員：ペーパー１枚２枚にまとめた方が見てくれるのではないか。早めに出向いて説明し、もっと意見を出してもらった方がよい。

教育長：昨日の策定委員会でもペーパー表裏１枚でないと読んでもらえない、こちらから出ていかないといけないと同じ意見が出され、反省するところである。

高橋委員：パブリック・コメントを出してくれた方の年齢は。保護者はいたのか。

学教係長：８名中、幼稚園保護者２名、４０代１名、６０代以上が５名であった。

高橋委員：若い方はあまり意見を出さないのではないか。

中村委員：表立っては言わないが、よく聞こえてくるのは、身の丈に合ったもの以上のものを作ると後々大変になるのではないかということ。

高橋委員：ハード面は言いやすいが、ソフトの面の意見を聞くのは難しいのではないかと思う。

中村委員：基本計画の 3,000 万円のという金額は、外資系コンサルタントにお願いするのか。

教育長：国交省の算定基準があり、おおまかな建物の面積で算出しているが、一般的な項目をやった場合であるため、増えることもある。

中村委員：それが分からない方も多い。そしてお金をかけた分、それ相応の成果が欲しいという願いがある。

高橋委員：理念に反対する人はいない。この理念のために必要な施設や場所などを説明すれば納得できるのでは。

志村委員：理念も大切だが、義務教育学校のカリキュラムについても早く周知してほしい。

引地委員：構想についての意見はなかなか出てこないと思う。しかしもっと意見がないと前に進めないのであれば、早めに保護者の集まりなどに出向いて説明する必要がある。

高橋委員：他の義務教育学校の具体例とプラスマイナス面も提示してもらいたい。月舘学園はどうなのか。

指導主事：月舘学園は小規模校のため校長が一人であるが、義務教育学校ではない。
実際の義務教育学校のイメージがわかないと思うので、視察に行き、共通の理解の場に立ってからいろいろな話が進むのかなと思う。

教育長：梁川や保原などの新しい学校はオープンなスペースがあったり、全く違う状況。そういった現状を知っていただいた上で、議論が出来ればと考えている。

中村委員：最近、サッカーの応援でなみえ創生学校に行った。校庭が広く明るくて素晴らしかった。地域の方がお団子づくりをしていて、全く関係のない私たちにも声をかけてくれて一緒にお団子づくりをした。開かれた学校だと思った。とても良い印象であった。

教育長：地域の方が入れるということはセキュリティが保たれることが絶対条件。今はそういう学校になっていることをみなさんにきちんと伝わるように考えることが大事。

高橋委員：説明するときにもっと皆さんが頭の中で具体化されてないと。写真や動画を見せるといい。

教育長：分かりやすく、イメージができるようにするとより話しやすくなると感じた。

高橋委員：くにみ学園のように小中一緒になったら、小学生から太々神楽部や琴や三味線ができるなどそういう考え方があってもいいと思う。

教育長：義務教育学校になれば、現実的に４年生から９年生まで部活をやっていける。

高橋委員：そういった話を保護者の方にしていけばよいと思う。

教育長：あとは塾と違い、学校が集団であることがメリットになることをやっていかなければならない。

高橋委員：中学生のうちに社会性を身に着けてあげないと、就職をせず家にいる子が増えてしまう。

教育長：今は会社に属することがプラスではないという考えが増えている。だからこそ、これから自分でやる人たちが増えていく中で、その時にきちんと力が発揮できるようなベースが国見でできていると良いと思う。

引地委員：そういったことを伝えたらいいのでは。

教育長：今は４年生から５年生にも壁があると言われている。

指導主事：１０歳の壁と言われていて、ちょうど思春期に入る年齢である。４年生の算数と５年生の算数の難しさも全然違う。例えば、義務教育学校で１年生から４年生、５年生から７年生と分けると、４年生がしっかりしてくる。

高橋委員：そういった話も伝えられると、分かりやすくていいと思う。

〇その他

・令和５年３月教育委員会は３月１３日（月）午後５時１５分より観月台文化センター第１会議室で開催予定

13．閉　　会　　午後７時３０分

上記記録の正確なることを認めここに署名する。

令和５年２月２２日

議事録署名人

１番委員

２番委員

会議書記　　主任主査兼学校教育係長